

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000639		
法人名	株式会社アルバ		
事業所名	グループホーム サライ上豊田		
所在地	愛知県豊田市上原町西山290-6		
自己評価作成日	令和4年 1月 12日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=2393000639-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福祉サービス評価センター		
所在地	名古屋市中西区四女子町1丁目59番地の1の902		
訪問調査日	令和 4年 3月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【アピールしたい点】職員全員が、自身の自己覚知を認識することで、入居者様一人一人が本意で求める生活のあり方が実現出来るよう、日々援助させて頂いています。入居者様の個別のカンファレンスをこまめに行うことで身体的、心理的の変化に気づき、適切な対応を実施することで、入居者様は、毎日、安心して健康的に笑顔で過ごすことが出来ています。入居者様自身が安心して生活が送れる物的環境、人的環境を整え、いつまでも心と体が元気であって欲しい!と願い職員全員が親身になって対応しています。
 【力を入れている点】コロナ禍で外出出来る機会を多く失っている入居者様に対し、ホーム内でも季節感を味わうことが出来るよう、季節を感じる事が出来る飾りを入居者様と一緒に作り飾ったり、旬の食材を使用し、入居者様主体で役割分担した食レクを実施し喜んで頂いています。毎月、入居者様全員参加で職員と一体化したイベントを実施し、入居者様、職員と一緒に盛り上がり楽しみのある生活が送れるよう支援しています。職員自身も入居者様の喜ぶ良い表情が見れることに特別な報酬を得たような様に更なるステップアップを目指し精進して努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人の(株)アルバは、県内でグループホーム(5か所)他、デーサービス、有料老人ホーム、訪問介護・看護、居宅介護支援、その他の介護施設等を運営しており、業歴20年の経験と実績がある。「GHサライ上豊田」はそうした経験・知識・ノウハウを生かし、建物等が建築・設計されており、利用しやすい施設となっている。また運営管理もこれまでの経験を活かし、管理者のリーダーシップのもと利用者様を最優先として対応されている。基本理念に「笑顔に満ちあふれた ふたつめの家族」を掲げ、ユニット会議等で職員と共に唱和して理念達成に向け一丸となって取り組んでいる。その実現に向けての三つの行動指針も掲げ実践していることから、利用者が安心して毎日を過ごせる工夫が随所に見られサービスの質向上が図られていることが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である誓いを毎朝唱和し、理念に沿った支援を心掛けている。	基本理念として「笑顔に満ちあふれたふたつめの家族」、行動指針として「家庭的な雰囲気の中で、その人らしい穏やかな生活が送れるように支援いたします」「地域の中で居心地よく安らげる環境づくりをお手伝いします」「一人ひとりの身心の変化にいち早く気づき、安全・安心に暮らせるように支援いたします」を掲げ、毎朝、これをを唱和し、その実現と実践に向け、趣旨の徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の地主様の畑を借り野菜を近所の方と一緒に作りながら交流を図る取り組みを予定していたがコロナ感染予防のため実施出来ていない。	「重要事項説明書」に、施設の運営方針として、「地域との交流と連携」「地域の中で事業所が孤立することのないような活動」を掲げ、「地域活動への積極的参加」を表明している。「地主より畑を借り、近隣住民との共同作業でのふれあい」などを計画したり、地域行事への参加等もめざしていたが、コロナ禍のため実現していない。	近隣で共同作業をされている所はとも良いことです。コロナ禍に於いて無理ですが、今後コロナ感染症終息を見て、更なる地域とのお付き合い、例えば施設の「桜見」などに近隣の方を招待するなど企画検討されたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議がコロナ感染予防により中止としていたため、ホーム内での活動状況報告等を書面にて説明し理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防対策のため運営推進会議の開催が中止としていたため入居者ご家族様、地域の方々にホーム内での活動実績を書面にて報告し、意見を頂いたことに対してサービス向上に活かせるよう取り組みを行っている。	運営規程19条に「運営推進会議の規定及び目的等」を定めている。利用者・家族、地域の代表者、市町村の職員又は地域包括支援センター職員、介護の有識者などの参加を定め、定例開催に向け、前向きに取り組んでいる。コロナ禍という制約があるため当面は「書面会議」で開催し、施設運営の重要事項等を選択し討議している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長が窓口となって、事業所内でのイベント等の活動実績、病変時の対応・事故対応等の連絡をとっている。	令和2年4月の開設以来、コロナ禍の制限がある中、施設長は、市町村との連携を積極的に目指しその窓口となっている。「いきいき支援センター職員」の運営推進会議への参加や市の担当窓口との連絡・相談などを通じ、グループホーム運営についての意見聴取など、良好な連携関係づくりをめざしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的虐待や心理的虐待への理解を得るため勉強会のテーマに挙げている。徘徊、転倒リスクの高い方にも個別にカンファレンスを行い拘束をしないケアで対応している。	運営規程12条に、「緊急やむを得ない事態を除き、介護のあらゆる場面において非拘束対応」を明記している。その実践に向け、「研修や実務」の機会を活用し、その実践に努めている。施設長は、あらゆる介護場面で「拘束禁止」を前提にした対応方法を考え行動するよう徹底している。	身体拘束について記録簿は是非作成されたい。「拘束禁止」を前提に取り組まれ身体拘束はされていないものの、拘束をせずこんな方法や配慮をして拘束をしなかったという内容で良いので記録に残されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会のテーマに挙げ取り組んでいる。上司、部下間の個人的に対話する時間を設けたり、職員間のコミュニケーションを多く持ち、一人で抱え込まない環境作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様もいるため支援のノウハウを活かし、ご本人の意思を尊重した支援を行っている。成年後見制度について勉強会の際に資料を配布し制度の理解が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が窓口となり締結・解約を行っている。入居時はご本人やご家族の希望や不安な点をお聞きし、情報を職員へ開示したうえで、どうお迎えするかカンファレンスを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映	毎月ホーム便りを送付する際にご家族からのご意見を返送できる用紙を送付している。また、来訪に際に希望を仰って下さるご家族もいる。	利用者の意見・要望等は、日ごろの声掛けや介護の中で把握に努めている。家族の意見等は原則として面会時に把握。然し、施設開設以来、コロナ禍が断続的に続き、十分な反映が難しい状況が続いている。毎月の「ホーム便り」に、家族意見等を返信できる用紙を同封し、意見等を把握するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長が社内メールを活用しスタッフからの提案・意見やご家族様からの要望等を毎月1回実施している管理者会議の際に議題として出している。	職員は日常の業務や介護対応の中から、業務上の問題点などを見つけ、「業務日誌」「ミーティング」などで報告し意見を表明している。施設長はメールを活用し、スタッフ意見等の把握に努め、管理者会議の議題にするなどして、施設の運営に反映させている。家族会等の開催もコロナの状況を見て判断する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標設定をし、それに伴う評価を行う評価制度システムが導入されており、各自が向上心を持って働けるよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の実施、社外研修等を受けることができる環境がある。コミュニケーション技法、ホスピタリティ研修等、介護のことだけでなく職員のメンタルヘルスケアが出来る場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加、豊田市サービス調整会議に毎月2回出席し他事業所との交流、情報交換を取るようになっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のインテークの際にご本人の精神状態、心理状況を親身に聞き取り、不安を軽減出来るよう努めている。面会の希望があった際は記録に残し職員が周知できる体制を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や入居手続き時、ご家族が困っていることや不安に思うことはないか必ずお聞きしている。また、入居前に密に連絡を取り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族に入居前の生活環境、生活スタイル等の情報収集を行い、必要とされるサービス内容を検討し支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の主体性を尊重したケアを心掛けています。本人がこれまで行ってきた家事を今後も続けて行って頂くことでQOLが下がらないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪された際に日頃の様子を報告したり、月に一度文書で近況報告をする。他、本人の体調に変化があった際はその日のうちに連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	十分な感染予防対策を実施しながら家族以外の友人が来訪された際は、受け入れご利用者との関係が途切れず続くよう支援している。	利用者は、豊田市及び近隣の方が多く、親戚・知人等との交流が気楽に出来る境下にある。然し、現在のコロナ禍の状況下では、面会のための「三密回避」や「感染予防の条件整備」が非常に難しい。そのために「ネットを活用した面会対応」や「ホーム便りの活用」など、出来る範囲の工夫を考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝行う体操、午後から行うレクリエーションは全員参加で関わり合いが持てる環境である。季節行事や誕生日会で交流する機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葬儀に参加させて頂いたり、退去後にご利用中の様子を写真にまとめアルバムにして送らせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの生活に対する意向は介護計画書の更新の度、アセスメントしニーズを取りこぼさないようにしている。	利用者との日々の何気ない会話やふれあいの中から、気づいた「話題」や「趣味・趣向」「行動特性」などをこまめに記録している。そうした資料から、「話題」や「特技」「趣味」などを見つけ、日常生活に生かしている。また、介護計画の見直しなどにも活用し、施設での生活の充実をめざしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報収集の把握に努め、これまでの生活歴を考慮し主体性を持ったケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないことよりもできる事に焦点を当てることでその方の力を発揮できるケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日介護計画書が実施できるよう目標を決めて行っている。モニタリングはその実地内容なども考慮し行っている。	現状に即した介護計画の実施をめざし、状況急変には速やかに計画変更で対応している。「定期的な見直し」は原則6か月毎に対応。利用者ごとに、職員・ユニット責任者・計画作成者などで話し合い、利用者の状況及び家族の要望などを取り入れて計画作成を進めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、ケース記録が主となっているが、職員間で声を掛け合い情報の把握、共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が気軽に入出りできる雰囲気作りに努めている。また、写真やお便りで様子をお知らせしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で理美容のための外出が厳しい状況の中、地域の美容院の方が定期的にボランティアで入居者のヘアカットに来院して下さりご協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療との連携がある。24時間の緊急体制も確保できている。	「かかりつけ医」を希望する利用者には希望に沿って、家族と協力し受診支援などの対応をしている。然し、利用者の多くは、「24時間の緊急体制の確保」「ターミナルケアへの対応」「訪問看護による健康管理」などを利用できる施設の「協力医療機関」を受診している。必要に応じ「専門医」の受診対応にも協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している訪問看護ステーション泉公園による週に1回の健康管理を受けている。特変があった場合は電話連絡で情報伝達し対応方法の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関と連携をし、情報が途切れないよう努めている。入退院の際には、介護サマリー、診療情報提供書、看護サマリーの送付にて状態がわかるよう病院関係者と関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの意向をご家族から確認し、文書を交わしている。終末期には、日進在宅クリニック主治医よりご家族に看取りの説明を行い同意を交わしている。	入所時にターミナルケアについて説明し理解を得ているが、重度化した場合、改めて家族との話し合いや主治医の意見聴取などを行い、終末期の方針決定を行っている。終末期対応についての家族の協力、職員の研修、医療連携などについても、体制整備を進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日進在宅クリニックの主治医や訪問看護ステーション泉公園より予測される急変の際の対処方法を事前に確認し、全職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。訓練の際に避難経路の確保、再認識に努めている。	運営規程14条に「非常災害対策」の基本骨子を定め、それに基づき対応を進めている。火事・地震などの各種災害について、いろいろのケースを想定し、職員の役割分担などの体制整備を進めている。定期的に防災訓練を実施している。マニュアルや災害備蓄等にも配慮している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき個人を尊重し尊厳を守ることを心掛けた声かけを行っている。	「基本理念」に基づき、「穏やかな生活の確保」「居心地よく安らげる環境づくり」「安全・安心に配慮した暮らしの支援」を重視した「介護環境づくり」をめざしている。現場における「介護実践」では、利用者の「誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応」に常に留意し行動している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を伺うことその他に、選択が困難な方には選択肢を絞り自己決定できる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望が聞かれた際は、スケジュール組をするなどし、ご本人の思いが実現できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髭剃りを行ったり、整容を行っている。また、定期的に美容師が来訪しヘアカットをしている。その日の衣服は本人に相談しながら準備をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり盛り付けを職員と一緒にしている。食事メニューを見える所に貼って食事への楽しみを持って頂けるよう工夫している。	食材業者に依頼した材料とメニューを基に、毎日、職員と利用者が協力して、「調理」「配膳」などの食事の基本スタイルを維持し「食事を楽しむ工夫」を続けている。利用者ごとの栄養管理や食事補助などは職員が留意・対応に努めている。食事メニューを見えるところに貼るなど、食事への楽しみを増す工夫もしている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算や水分量をチェックしながら目標水分量や栄養を満たせるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している他、定期的に提携している小島歯科に健診にきてもらい清潔保持を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便のコントロール剤や食生活の見直し、一定のリズムで排泄が出来るよう支援している。尿意、便意の曖昧な方は声かけし定時誘導を実施している。	利用者個々の状況に合わせて、排泄のリズムを作るため、その人に合わせた「クスリの使用」や「食生活の見直し」などを行い、「排泄の自立」に向けた支援を実施している。トイレ案内も、個々の利用者のリズムや特性などに配慮して、さりげない定時誘導や個別声掛けで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスよく食事を摂って頂いたり、水分をしっかり摂るよう促したり、日常的に運動を取り入れるよう支援している。便秘症の方には、排便コントロール剤を使用し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人のタイミングで入浴できるよう、無理強いはしていない。入浴が不可能な方は清拭対応し支援している。週に2回を目安に入浴の回数の増加を図っている。	入浴が、楽しくできる時間割や入浴補助体制などを整え、声掛けを行い、積極的に入浴をすすめ、入浴後は保湿ローションをつけるなど快適性に心がけ取り組んでいる。時間帯なども出来る限り利用者の希望に沿うように対応している。現在は、原則、「週に2回」のペースの入浴となっている。入浴が不可能の時は「清拭」で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様1人1人に合った居室の空調を整え気持ちよく休まれるよう管理する。日中の活動量を増やし、寝つきが悪い方には個別に対話するなどして十分に睡眠が取れるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を各ユニットで保管し常時確認できる体制がある。内服薬、外用薬に変更があった際は業務日誌に記載し全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いすることなく本人自身が自分の役割として掃除、調理、洗濯等を職員と一緒にやっている。毎月手作りのおやつをみんなで作って喜ばれている。誕生日会も毎月行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防対策のため外出の機会を提供することが困難な状況が続いている。個人的に自宅に帰られる際は安全な外出が出来るよう援助している。外出はホームの周辺のお散歩を行っている。	コロナ禍の影響を一番受けているのが、外出支援である。「感染予防」に留意し、「三密の環境」を避け、なんとか毎日短い時間でも外出ができる対応に努力をしている。日常的な外出は、ホーム近隣の散歩などに限定されるが、日光浴をしながら楽しんでいただいている。コロナ禍がおさまれば、個々人の要望対応も考えている。	コロナ感染予防対策の為、現在は外出を自粛されていることは理解できます。今後コロナ感染の終息を見極め、今から外出支援の場所、方法を職員で話し合い利用者が楽しみの一つになるよう取り組んでいただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある入居者様に関してはご家族と相談上所持して頂いている。金銭管理が困難な入居者様はホーム内金庫にて保管している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話を掛けたり、ご家族から掛かってきた際にご本人と代わりお話して頂く機会がある。電話を居室におかれているご利用者様もおり、ご自分で電話をかけられる環境がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気や、こまめな居室の清掃、トイレ掃除を実施し匂いへの配慮を工夫している。また、四季に合わせ装飾物などを変え季節感を味わえるよう努めている。	運営法人が高齢者施設を多く設置・運営してきた経験をもとに、現場の声を取り入れ、建築設計の段階から、デザイナーが設計し、「明るく快適な生活空間の維持」「全館バリアフリー」などを考慮して建てられている。住環境の良さをフルに生かし、居心地の良い生活空間づくりが実現している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室へ長く入られている際はフロアへお誘いするなど孤立しないよう配慮している。気の合う入居者様同士、同じテーブルに座って頂き会話ができるよう席の配置に配慮する環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に以前使っていた家具や仏壇などを持参して頂き、安心して心地よく暮らせる工夫をしている。	各居室には「表札」が掲げられ、自室が分かるように工夫されている。部屋には、自宅で使用していた、馴染みの品や家具・手回り品・仏壇などの持ち込みがなされ、利用者ごとに、自分らしい居室空間が構成され、安心して心地よく暮らせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を設け、居室が分かるように工夫している。また、トイレの扉に分かりやすく大きくトイレのマークを貼るなどし、迷わずトイレへ迎えるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000639		
法人名	株式会社アルバ		
事業所名	グループホーム サライ上豊田		
所在地	愛知県豊田市上原町西山290-6		
自己評価作成日	令和4年 1月 12日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2393000639-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福祉サービス評価センター
所在地	名古屋市千川区四女子町1丁目59番地の1の902
訪問調査日	令和 4年 3月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【アピールしたい点】職員全員が、自身の自己覚知を認識することで、入居者様一人一人が本意で求める生活のあり方が実現出来るよう、日々援助させて頂いています。入居者様の個別のカンファレンスをこまめに行うことで身体的、心理的の変化に気づき、適切な対応を実施することで、入居者様は、毎日、安心して健康的に笑顔で過ごすことが出来ています。入居者様自身が安心して生活が送れる物的環境、人的環境を整え、いつまでも心と体が元気であって欲しい!と願い職員全員が親身になって対応しています。

【力を入れている点】コロナ禍で外出出来る機会を多く失っている入居者様に対し、ホーム内でも季節感を味わうことが出来るよう、季節を感じる事が出来る飾りを入居者様と一緒に作り飾ったり、旬の食材を使用し、入居者様主体で役割分担した食レクを実施し喜んで頂いています。毎月、入居者様全員参加で職員と一体化したイベントを実施し、入居者様、職員と一緒に盛り上がり楽しみのある生活が送れるよう支援しています。職員自身も入居者様の喜ぶ良い表情が見れることに特別な報酬を得たような様に更なるステップアップを目指し精進して努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人の(株)アルバは、県内でグループホーム(5か所)他、デーサービス、有料老人ホーム、訪問介護・看護、居宅介護支援、その他の介護施設等を運営しており、業歴20年の経験と実績がある。「GHサライ上豊田」はそうした経験・知識・ノウハウを生かし、建物等が建築・設計されており、利用しやすい施設となっている。また運営管理もこれまでの経験を活かし、管理者のリーダーシップのもと利用者様を最優先として対応されている。基本理念に「笑顔に満ちあふれた ふたつめの家族」を掲げ、ユニット会議等で職員と共に唱和して理念達成に向け一丸となって取り組んでいる。その実現に向けての三つの行動指針も掲げ実践していることから、利用者が安心して毎日を過ごせる工夫が随所に見られサービスの質向上が図られていることが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である誓いを毎朝唱和し、理念に沿った支援を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所の地主様の畑を借り野菜を近所の方と一緒に作りながら交流を図る取り組みを予定していたがコロナ感染予防のため実施出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議がコロナ感染予防により中止としていたため、ホーム内での活動状況報告等を書面にて説明し理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防対策のため運営推進会議の開催が中止としていたため入居者ご家族様、地域の方々にホーム内での活動実績を書面にて報告し、意見を頂いたことに対してサービス向上に活かせるよう取り組みを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長が窓口となって、事業所内でのイベント等の活動実績、病変時の対応・事故対応等の連絡をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的虐待や心理的虐待への理解を得るため勉強会のテーマに挙げている。徘徊、転倒リスクの高い方にも個別にカンファレンスを行い拘束をしないケアで対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会のテーマに挙げ取り組んでいる。上司、部下間の個人的に対話する時間を設けたり、職員間のコミュニケーションを多く持ち、一人で抱え込まない環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様もいるため支援のノウハウを活かし、ご本人の意思を尊重した支援を行っている。成年後見制度について勉強会の際に資料を配布し制度の理解が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が窓口となり締結・解約を行っている。入居時はご本人やご家族の希望や不安な点をお聞きし、情報を職員へ開示したうえで、どうお迎えするかカンファレンスを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ホーム便りを送付する際にご家族からのご意見を返送できる用紙を送付している。また、来訪の際に希望を仰って下さるご家族もいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長が社内メールを活用しスタッフからの提案・意見やご家族様からの要望等を毎月1回実施している管理者会議の際に議題として出している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標設定をし、それに伴う評価を行う評価制度システムが導入されており、各自が向上心を持って働けるよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の実施、社外研修等を受けることが出来る環境がある。コミュニケーション技法、ホスピタリティ研修等、介護のことだけでなく職員のメンタルヘルスケアが出来る場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加、豊田市サービス調整会議に毎月2回出席し他事業所との交流、情報交換を取るようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のインテークの際にご本人の精神状態、心理状況を親身に聞き取り、不安を軽減出来るよう努めている。面会の希望があった際は記録に残し職員が周知できる体制を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や入居手続き時、ご家族が困っていることや不安に思うことはないか必ずお聞きしている。また、入居前に密に連絡を取り関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族に入居前の生活環境、生活スタイル等の情報収集を行い、必要とされるサービス内容を検討し支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の主体性を尊重したケアを心掛けています。本人がこれまで行ってきていた家事を今後も続けて行って頂くことでQOLが下がらないよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪された際に日頃の様子を報告したり、月に一度文書で近況報告をする。他、本人の体調に変化があった際はその日のうちに連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	十分な感染予防対策を実施しながら家族以外の友人が来訪された際は、受け入れご利用者との関係が途切れず続くよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝行う体操、午後から行うレクリエーションは全員参加で関わり合いが持てる環境である。季節行事や誕生日会で交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葬儀に参加させて頂いたり、退去後にご利用中の様子を写真にまとめアルバムにして送らせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの生活に対する意向は介護計画書の更新の度、アセスメントしニーズを取りこぼさないようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報収集の把握に努め、これまでの生活歴を考慮し主体性を持ったケアに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないことよりもできる事に焦点を当てることでその方の力を発揮できるケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日介護計画書が実施できるよう目標を決めて行っている。モニタリングはその実地内容なども考慮し行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、ケース記録が主となっているが、職員間で声を掛け合い情報の把握、共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が気軽に入出入りできる雰囲気作りに努めている。また、写真やお便りで様子をお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で理美容のための外出が厳しい状況の中、地域の美容院の方が定期的にボランティアで入居者のヘアカットに来訪して下さりご協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療との連携がある。24時間の緊急体制も確保できている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している訪問看護ステーション泉公園による週に1回の健康管理を受けている。特変があった場合は電話連絡で情報伝達し対応方法の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関と連携をし、情報が途切れないよう努めている。入退院の際には、介護サマリー、診療情報提供書、看護サマリーの送付にて状態がわかるよう病院関係者と関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの意向をご家族から確認し、文書を交わしている。終末期には、日進在宅クリニック主治医よりご家族に看取りの説明を行い同意を交わしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日進在宅クリニックの主治医や訪問看護ステーション泉公園より予測される急変の際の対処方法を事前に確認し、全職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。訓練の際に避難経路の確保、再認識に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき個人を尊重し尊厳を守ることが心掛けた声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を伺うことの他に、選択が困難な方には選択肢を絞り自己決定できる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望が聞かれた際は、スケジュール組をするなどし、ご本人の思いが実現できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髭剃りを行ったり、整容を行っている。また、定期的に美容師が来訪しヘアカットをしている。その日の衣服は本人に相談しながら準備をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり盛り付けを職員と一緒にしている。食事メニューを見える所に貼って食事への楽しみを持って頂けるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算や水分量をチェックしながら目標水分量や栄養を満たせるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している他、定期的に提携している小島歯科に健診にきてもらい清潔保持を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便のコントロール剤や食生活の見直し、一定のリズムで排泄が出来るよう支援している。尿意、便意の曖昧な方は声かけし定時誘導を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスよく食事を摂って頂いたり、水分をしっかりと摂るよう促したり、日常的に運動を取り入れるよう支援している。便秘症の方には、排便コントロール剤を使用し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のタイミングで入浴できるよう、無理強いはしていない。入浴が不可能な方は清拭対応し支援している。週に2回を目安に入浴の回数の増加を図っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様1人1人に合った居室の空調を整え気持ちよく休まれるよう管理する。日中の活動量を増やし、寝つきが悪い方には個別に対話するなどして十分に睡眠が取れるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を各ユニットで保管し常時確認できる体制がある。内服薬、外用薬に変更があった際は業務日誌に記載し全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いすることなく本人自身が自分の役割として掃除、調理、洗濯等を職員と一緒にやっている。毎月手作りのおやつをみんなで作って喜ばれている。誕生日会も毎月行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ感染予防対策のため外出の機会を提供することが困難な状況が続いている。個人的に自宅に帰られる際は安全な外出が出来るよう援助している。外出はホームの周辺のお散歩を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある入居者様に関してはご家族と相談上所持して頂いている。金銭管理が困難な入居者様はホーム内金庫にて保管している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話を掛けたり、ご家族から掛かってきた際にご本人と代わりお話し頂く機会がある。電話を居室におかれているご利用者様もおり、ご自分で電話をかけられる環境がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気や、こまめな居室の清掃、トイレ掃除を実施し匂いへの配慮を工夫している。また、四季に合わせ装飾物などを変え季節感を味わえるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室へ長く入られている際はフロアへお誘いするなど孤立しないよう配慮している。気の合う入居者様同士、同じテーブルに座って頂き会話ができるよう席の配置に配慮する環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に以前使っていた家具や仏壇などを持参して頂き、安心して心地よく暮らせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を設け、居室が分かるように工夫している。また、トイレの扉に分かりやすく大きくトイレのマークを貼るなどし、迷わずトイレへ迎えるよう工夫している。		